

かぼちゃにおけるモザイク病の防除対策について

一部の地域のかぼちゃでモザイク病の発生が多くみられます。向こう1ヶ月の前半は気温が高くなる可能性があり、媒介虫であるアブラムシ類が発生しやすい状況にあります。発病後の効果的な対策はないため、アブラムシ類の防除対策を徹底しましょう。

1 発生状況

- (1) 11 月下旬に行った調査の結果、宮古島市の一部地域で多発生が確認された(図1)。多発地域の発生ほ場率は 100%、発病株率は 51%であった。
- (2) 発病株からはズッキーニ黄斑モザイクウイルス(ZYMV)が確認された。
- (3) 発生ほ場でアブラムシ類が観察された(図2)。

2 生態

- (1) 本病は病原ウイルスとしてキュウリモザイクウイルス(CMV)、ズッキーニ黄斑モザイクウイルス(ZYMV)、カボチャモザイクウイルス(WMV)、パパイヤ輪点ウイルス(PRSV)の4種類が確認されている。
- (2) いずれのウイルスもアブラムシ類によって伝搬される。また、汁液でも感染するため、芽かき等の管理作業で広がる恐れがある。
- (3) 症状は、はじめ黄色の斑点ができて、次第にモザイク症状を呈する(図3)。また、葉脈が白く浮き出てみえる症状(葉脈透過)や葉、果実の奇形等の症状を示す。
- (4) 品種やウイルスの種類により症状の出方が異なる。
- (5) 単独感染もあるが、2種類以上のウイルスに混合感染している場合は症状が激しい。

3 防除対策上注意すべき事項

- (1) アブラムシ類の早期発見・早期防除に努める。
- (2) ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除去する。
- (3) 防風対策をかねてほ場周辺をネットやソルゴーで囲うことや、シルバーポリテープを場内に張ることでアブラムシ類有翅虫の飛来を防止する。
- (4) 発病株は発生源となるので、見つけ次第抜き取りビニール袋に入れるなどして密閉処理し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- (5) 本病は汁液感染するので、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。
- (6) 収穫後の残さは発生源となるので速やかに片付ける。



図1 多発生ほ場の様子



図2 発生ほ場で観察されたアブラムシ類 (左：有翅虫、右：無翅虫)



図3 モザイク病の葉の症状

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★
TEL：(本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0908-82-4933
ホームページアドレス： <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>